

「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産登録 (代表一覧表記載) に当たっての柴山昌彦文部科学大臣談話

「来訪神：仮面・仮装の神々」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことは大変喜ばしく、各地で「来訪神」行事の保護・継承に取り組んでこられた関係の皆様にご心よりお祝い申し上げます。

今回の登録は、平成21年に登録された「甕島のトシドン」を拡張し、「男鹿のナマハゲ」を含む計10件の国指定重要無形民俗文化財を「来訪神：仮面・仮装の神々」として一括して提案し、認められたものです。日本の各地域の「来訪神」行事の豊かな特色が、国内外に発信されることを期待します。

「来訪神」は、外界から異形の神々が訪れ、人々に福をもたらす行事であり、日々の暮らしの安寧を求める人々の素朴な願いが込められています。この登録が契機となり、地域で受け継がれてきた文化に対する理解が深まり、また、地域間の新たな交流や対話が生まれ、新しい絆や活力につながっていくことを願っております。

文部科学省としては、「来訪神」行事が各地域で次世代に着実に継承されるとともに、地域の活力向上につながるよう、しっかりと取り組んでまいります。